

実績報告

看護部

- ・外来棟
- ・2階病棟
- ・3階病棟
- ・4階病棟
- ・5階病棟
- ・1階北病棟

- ・中央材料室





看護部

【看護部スタッフ数（平成27年3月31日時点）】

	在職者数	平均年齢	平均在職年数
看護師 (パート含む)	116名 (前年度+10名)	36.5歳 (前年度+0.6歳)	7.2年 (前年-0.1年)
准看護師	7名 (前年度-3名)	46.3歳 (前年度-1.9歳)	15.7年 (前年度-4.0年)
看護補助	31名 (前年度-6名)	43.1歳 (前年度+0.1歳)	7.4年 (前年度-1.3年)

【平成26年度を振り返って】

① 入院中の治療・ケア、退院・地域移行・地域定着へのコーディネイト役を担う。

院長回診（毎週水曜日、対象患者：各病棟の直近入院者・退院予定者・被隔離・拘束者）に同行し、病棟からのプレゼンテーションや情報交換を行っている。病期に関わらず、受持看護師が患者・家族に治療・ケア、地域移行・地域定着への動機付けを行っている。多職種を代表して、コーディネイト役を担い、連携・協働してプランニングしている。

② 病棟における心理社会療法の実践

2階病棟	回想法（対象 認知症患者）
3階病棟	心理教育、生活技能訓練、回想法（対象 認知症患者）
4階病棟	回想法（対象 認知症患者）
5階病棟	心理教育、認知行動療法、生活技能訓練、アロマ療法、弁証法的行動療法、クリニカルパス
1階北病棟	回想法（対象 認知症患者）

現在、全ての病棟で患者の適用や希望等を考慮して看護師を含めた多職種が病棟内で心理社会療法を実践している。昨年度に引き続き、今後もより多くの看護スタッフが関わられることと質の高いプログラム提供できることが肝要である。指導者の育成とスキルアップが課題。

③ 医療事故防止

平成26年度南浜病院におけるインシデント・アクシデントレポートの3大上位は1位：転倒・転落158件（前年度-7件、うちレベル3は前年度8件から2件に減少）2位：薬剤132件（前年度+7件）、3位：器物破損61件（前年度+22件）であった。昨年度3位の暴言・暴力は29件（前年度-21件）で6位に後退した。

1位の転倒・転落については、高齢化、入院前の脱水や低栄養状態の遷延等でリスクを高めているケースがある。当院かかりつけの患者には総合支援室と連携した早期の介入をし、他の施設からの紹介患者については身体面への情報収集に不備のないよう留意する。

④ 看護師の採用促進と離職防止

平成26年度実績

	4月新卒採用	4月～ 既卒採用	4時間以上勤務の パート・アルバイト 採用者	退職者
看護師	3名	6名	8名	10名
准看護師				0名
看護補助	1名	6名	0名	5名

依然、看護配置の確保と維持には日々苦勞を伴っている。職員の補充と配置上の安定が課題である。

看護師採用促進のため、新潟県や企業主催の就職ガイダンス参加をはじめ、臨地実習を受けている大学、専門学校等に募集活動を行っている。

【平成27年度抱負】

- ・医療事故防止への取組み
インシデント・アクシデントレポート発生総件数の減少に努め、安心・安全な医療提供を実現させる。
- ・看護師確保と定着
精神科救急病棟新設に伴う看護配置基準のクリア
公益社団法人新潟県看護協会ナースセンターの看護職員再就職支援講習会協力施設にエントリーし、看護師確保に取り組む。
- ・精神科救急病棟申請のための実績確保（措置入院件数、時間外診療件数など）
質の高い看護の提供。

文責 大滝 寛

【職員数】

看護師 3名 准看護師 1名

【業務内容】

外来では、通院患者の診察に関する業務を全て行っている。外来予約状況を把握し、診察がスムーズに行われるよう、精神面・身体面の状態の把握に努めている。状態によっては早期に受診に結び付けられるよう、総合支援室・デイケア科など他部署との情報共有を行っている。また、糖尿病や脂質異常などの内科疾患を有する患者の増加に伴い、検査結果の把握・診察日毎の体重測定や生活習慣などの情報収集を行っている。

電話対応も重要な業務の1つで、患者の精神・身体的な不安が軽減できるよう傾聴し、必要に応じて医師に情報提供している。適切な薬剤使用や、リラックスの方法を一緒に考え、情報共有することで継続した看護が実施できるよう努めている。

【今後の展望】

- ・増加している新規患者や入院相談、臨時受診に柔軟に対応する為、各部署との連携を深めていく。
- ・様々なケースに対応する為、患者個々の精神・身体的観察を行い、的確な情報提供と看護を行う。
- ・病棟と情報を共有し、継続看護を行う。

文責 島山 恵子

【実績】

各月の外来患者数と入院患者数と前年比較(人) ()内は前年比較数

	延べ患者数	1日平均患者数	入院数
平成26年4月	1,868 (64)	89.0 (3.1)	28 (▲ 7)
5月	1,790 (▲ 98)	89.5 (0)	39 (1)
6月	1,869 (143)	89.0 (2.7)	35 (7)
7月	2,081 (114)	94.6 (5.2)	48 (7)
8月	1,888 (▲297)	89.9 (▲ 9.4)	41 (▲ 1)
9月	1,960 (137)	98.0 (▲14.6)	34 (▲ 4)
10月	2,065 (25)	93.9 (1.2)	45 (13)
11月	1,726 (▲128)	95.9 (3.2)	28 (2)
12月	1,865 (52)	93.3 (▲ 2.1)	29 (▲ 4)
平成27年1月	1,681 (▲ 61)	88.5 (▲ 3.2)	45 (8)
2月	1,686 (56)	88.7 (2.9)	34 (8)
3月	1,980 (136)	90.0 (2.8)	38 (6)

【種 別】

精神一般

【病床数】

60床

【職 種】

看護師・准看護師・看護補助員

【業務内容】

2階病棟は、開放病棟対象の精神疾患の患者や内科的疾患を合併している患者、廃用症候群等により寝たきり或いは歩行が困難で車椅子生活を余儀なくされている患者が通常7割以上入院している病棟である。(特殊疾患入院施設管理加算を申請)

入院患者60名中、経管栄養の患者が10名前後、オムツ使用者50名前後、寝たきり又は車椅子使用患者は55名前後である。

内科的疾患を合併している患者には内科機能を十分に発揮しつつ、寝たきり予防のため、車椅子の乗車時間を設け、作業療法(以下OT)への参加を促し、心身共にメリハリのある日常生活を送れるよう細心の注意を払いながら、事故のないよう援助・ケアを提供している。

また、個人OTとして個別の身体リハビリも実施しており、機能の向上・維持を図るなど、病棟担当OTと一緒に援助・指導している。

他、急性期の内科疾患の輸液・酸素管理など、身体的な管理や高齢に伴う精神科薬投与量の見直し(転倒リスクを踏まえた)にも注意を払っている。と同時に、経管栄養の管理や、終末期ケアで患者の希望に沿った援助も行っている。

褥瘡対策、感染対策にも力を入れ、(褥瘡患者年間平均2.1名)感染症のアウトブレイクもなかった。

【今後の展望】

年々、終末期医療の患者や、輸液・酸素管理等の全身管理の必要な患者、ADL全介助の患者が増え、病棟業務は多種多様化し、肉体的な業務も増えている。

終末期医療の患者へは疼痛のコントロールで、厳重な管理のもと麻薬を使用することもあり、業務が煩雑になる傾向がある。そのため、笑顔での援助が減少しないよう、患者と職員とがリフレッシュ出来る企画をするなど、楽しく看護・援助出来るよう継続して工夫していきたい。

また、受け持ち看護師を中心とした患者個々の看護の提供を病棟目標に掲げ、援助している。

来年度は心理療法として回想法を取り入れる準備をしている。回想法を通して認知症の予防と、職員の患者への理解が深まり、より質の高いケアへの意欲にも繋がると考えられる。今後も安全で安心できる看護・援助を提供し、高齢者内科病棟としての役割を果たしていきたい。

文責 神田由香里

【実績】

	特殊疾患入院施設管理加算対象率
4月	72.8%
5月	73.3%
6月	75.0%
7月	74.5%
8月	75.0%
9月	77.1%
10月	76.2%
11月	74.5%
12月	75.8%
1月	82.1%
2月	79.3%
3月	77.5%

【個別身体リハビリテーション状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介入平均数	3.33	3.44	3.24	2.89	3.15	3.27	3.63	2.29	2.65	2.86	2.00	2.59
介入合計	90	93	81	78	85	72	69	48	53	63	46	57

【種 別】

精神科急性期治療病棟 I

【病床数】

60床

【職 種】

看護師・准看護師・精神保健福祉士・看護補助員

【業務内容】

急性期の精神科疾患患者に対し、急性症状の改善と安全を最優先に心身の安静に努め、集中的な治療と看護を提供している。

個別受け持ち制＋機能別看護で入院時から担当の看護師と精神保健福祉士が関わっている。本人や家族に対して必要な支援体制の提案や心理社会療法プログラムの選定（病棟内 SST、心理教育、回想療法、作業療法）、患者自身による病状と治療経過の評価、家族・患者面談など担当看護師がコーディネーター役として患者がチーム医療スタッフと話し合いながら主体的に治療をすすめている。

病棟内は4つのエリアに区分し、Aエリア・Bエリア・Cエリア・Sエリアそれぞれにリーダーを配置している。その日の統括リーダーやサブリーダーは主に医師の診察対応など全患者に関わる業務を遂行。各エリアのリーダーは担当する患者の状態の把握や必要なケアの実施を行っている。その業務と並行するように入院する患者の受け入れ、家族対応を行っている。

3ヶ月以内の退院を目標に一人の患者をみんなの力でサポートし、一日も早い社会復帰への援助を行っている。その他、看護師臨地実習の受け入れ（新潟医療福祉大学、国際メディカル専門学校など）をしている。

2名の臨地実習指導者を中心として、学生が伸び伸びと実習できる環境づくりと精神科看護の奥深い学びができるよう努力している。

【今後の展望】

- ・クリニカルパスやクライアントパスを活用した治療や看護など多職種医療スタッフでの情報共有と専門的な支援
- ・隔離の早期解除や統一した評価に向けた隔離評価表の作成を模索
- ・入退院のバランスを踏まえた新規入院患者比率のコントロール
- ・新規入院患者退院率60%以上をキープできるような支援体制の構築
- ・地域における支援者との関係づくりや社会資源の活用とサポート力の強化
- ・精神科救急病棟立ち上げ、スムーズな移行を視野に実績づくりを実施

文責 和気 一弘

【実績】

1. 病棟利用状況

	平成25年度	平成26年度	前年比
延入院患者数（名）	294	292	2.0減
月平均入院患者数	24.5	24.3	0.2減
平均在棟日数	74.5	68.1	6.4減
一日平均入院者数	52.1	51.3	0.8減

2. 各種プログラム参加状況（1ヶ月あたりの平均参加者数）

S S T	6.6
心理教育	37.8
回想法	10.8
作業療法	429.5

3. 疾患別入院者数 H26.4～H27.3

	統合失調症	うつ病	躁うつ病	認知症	パーソナリティ障害	精神発達遅滞	その他
4月	6	3	2	1	0	0	6
5月	3	7	6	2	2	0	5
6月	6	6	1	3	0	2	4
7月	8	9	2	2	0	1	6
8月	9	6	0	4	1	1	5
9月	8	8	2	2	0	0	2
10月	9	7	5	2	1	1	4
11月	7	8	1	1	0	2	4
12月	9	7	2	0	0	2	1
1月	9	7	5	2	3	1	4
2月	7	6	1	1	2	0	4
3月	6	5	6	1	0	0	4
合計	87	79	33	21	9	10	239

4. 新規入院患者入院率と退院率 H26.4～H27.3

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院率	84.7	88.9	89.7	89.8	95.9	96.6	95.9	94.6	81.7	97.3	97.0	92.3
退院率	65.2	58.8	90.9	62.5	91.7	80.0	75.0	85.7	78.9	78.6	68.2	66.7
非再入院率	87.5	83.4	100	91.0	95.5	85.0	87.5	100	100	100	93.8	92.4

※ 非再入院率：新規対象者で3ヶ月以内に退院し3ヶ月以上自宅または施設で過ごした方を対象

【種 別】

精神一般

【病床数】

60床

【職 種】

看護師・准看護師・看護補助員

【業務内容】

病棟の機能として、急性期治療病棟をはじめ、他病棟の後方支援病棟としての役割が大きい。その為、慢性症状を呈し入院が長期化している患者と急性症状を呈した患者が混在している。その中で、日常生活の援助を中心とし、集団・個別の生活技能スキルの向上と機能回復及び自立にむけた支援を行っている。また、患者の希望を現実に繋げられるよう退院に向けての支援として定期的にカンファレンスを実施し、方向性を定め、他職種によるサポート支援を心がけている。

【今後の展望】

病棟目標『私たちは患者との関わりを大切にし、希望を現実に繋げられるよう支援していきます』を掲げ、その為の2本柱として①「患者・家族との関わりを大切にし、少しでも退院に繋げられるよう支援していきます」②「安全で清潔な環境づくりに務めます」を新たに設定した。

患者の希望する生活実現の為、以下の内容に重点を置き支援を進めていく。

- ① 患者と協働してパートナーシップのもと問題に取り組む病棟文化の構築
- ② 行動制限の早期解除に向けた取り組み
- ③ 長期入院患者の長期化にストップ！をかける退院支援の取り組み

文責 深井真奈美

【実 績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院患者数	4	5	3	5	3	1	3	2	6	2	5	8
退院患者数	1	6	4	5	5	3	2	6	5	2	3	5
転入患者数	3	10	1	6	10	1	0	3	5	4	3	5
転出患者数	5	12	2	4	6	1	3	2	2	3	4	12
1日平均患者数	61.1	59.2	57.2	59.4	59.1	58.7	57.1	55	54.6	56.3	59.2	59.1

【種 別】

精神一般

【病床数】

60床

【職 種】

看護師・准看護師・看護補助員

【業務内容】

5階病棟は、6室の個室と1室の特別室を備えており、主にストレス症状を持つ、軽度のうつ病や心身症、思春期精神疾患など緊急避難的な短期休息入院の利用がある。その他に、急性症状の段階的治療により症状の安定した方や長期的な治療・療養が必要な方が入院している。個々の援助計画の立案や実践・評価の場面でも患者が主体的に参加できるよう業務を行っている。1日でも早い社会復帰と自立を支援していく為に、様々なプログラムを積極的に取り入れ、看護師がコーディネートしながら専門的な分野からの関わりを密にした支援を行っている。入院時から看護師と一緒に退院に向けての目標を立て、病状を評価しながら退院へつなげている。長期入院患者への退院促進の一環として、生活技能訓練（SST）や退院支援プログラム、地域支援移行事業の利用などがある。加えて生活面や治療に配慮した栄養・服薬指導等の各種個別指導や、肥満となっている方を対象に体重管理を主として集団栄養指導もプログラムとして行っている。他に、ストレス緩和を目的としたアロマセラピー、心理教育、認知行動療法、弁証法的行動療法などのプログラムの提供も行っている。今年度より弁証法的行動療法（こころのスキルアップグループの名称）の新たなプログラムを追加し開始した。又、多職種による医療チームで患者・家族をサポートしていけるよう努力している。

【今後の展望】

- ・患者が退院後の生活をイメージできるよう入院時から医療チームと連携していく
- ・看護師の適切なコーディネート力の強化と、患者、家族への支援内容の提供
- ・クリニカルパスの実施評価とクライアントパスの提供
- ・個々の患者に応じたプログラムの提供と必要となるプログラムの導入
- ・医療チームで検討した地域生活支援に対して入院中に可能な限り、調整しサポート体制を確立する

文責 柴田 実子

【実績】平成26年度

	入院患者数	退院患者数
4月	4	11
5月	8	6
6月	8	9
7月	8	15
8月	10	8
9月	10	10
10月	9	10
11月	3	5
12月	2	8
1月	11	6
2月	7	9
3月	8	15

各種プログラム参加状況（1回あたりの平均参加人数）※集団栄養以外はクローズドグループ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S S T (1回/週)	4.5	4	3	3.3	3.3	3.8	4.2	4.3	4.3	5	4.8	5
心理教育 (全8回)	7.8		4.5		7.7		6.5		4.8		6.2	
認知行動療法 (1回/週)	3	3	2.75	2.7	2	2.5	1	4	3	3	3	
弁証法的行動療法 (1回/週)						2.6		3.1	1.5	2.5	2.5	2.5
集団栄養 (1回/月)			6	3.5	3.5	5.4	4.7	5	4.6	5.1		

退院時アロマ提供人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アロマ (全3回)	2	4	2	7	1	1	5	4	4	2	1	10

【種 別】

精神療養

【病床数】

45床

【職 種】

看護師・作業療法士・看護補助員

【業務内容】

比較的安定した慢性期の精神症状を有する患者を対象に、社会参加・社会復帰するための支援や、日常生活で介助を有する患者には、快適で穏やかな療養生活を提供し退院へ向けてのアプローチを行っている。

日常生活に毎日OT活動を取り入れ、文化活動・体育活動・調理実習・外出活動・ガーデニングなど集団プログラムを通して病状の安定、対人関係能力の維持向上、生活リズムの回復、気分転換など図れる様にしている。

今年度は新たな取り組みとして、4月から退院支援カンファレンスを行っている。本人の状態や対処能力・残存機能に合わせた具体的なアプローチ方法を話し合い、家族や他部署および地域との連携を図りながら退院へと繋げていけるよう取り組んでいる。また、長期入院の患者を退院へとサポートしている。

平成27年1月からは、主に認知症を対象にした、高齢者の小グループを作り、感情の安定や不安感・孤独感の軽減、自分の培ってきた力の再発見、自尊心の向上などを目指した『回想法』を実施する新たなアプローチを開始した。

【今後の展望】

- ・退院に向けた多角的なアプローチとサポートの継続
- ・担当による、患者個別のコーディネートと院内外の他職種・関係各所との連携
- ・ADLの維持向上とリスクへの早期対応の継続

患者の自己対処能力や危機回避能力を高められるよう声掛けと環境整備を繰り返し行い、転倒のリスクを軽減できるようにしていく。

文責 川島 浩也

【実 績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入 院	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	4
退 院	0	2	0	1	1	0	1	0	1	0	2	1	9
転 入	3	6	3	5	2	2	1	0	2	0	1	5	30
転 出	1	7	2	4	3	2	0	1	1	0	0	3	24
日平均患者数	44	44.4	42.4	43.5	43.4	43	42.7	43.9	42.8	43.6	43.4	43.9	43.4

【職員数】

看護補助員 1 名

【業務内容】

- 各病棟からの注文伝票による医療材料（酸素ボンベ・携帯酸素含む）、衛生材料（患者のオムツ等）の発注と納品された物品の検品を行ない、各種伝票および請求書を整理し、パソコンで管理している。
- 中材室設置のオートクレーブを用いて滅菌ガーゼの作成と、全病棟から受け取っている医療器材の滅菌消毒を行なっている。
- 患者の介護用品（車椅子、保護帽、リハビリシューズ、シルバーカー等）を総合的に受注し、担当者への発注と用品の納品、注文伝票等をパソコンで整理・管理している。
- 院内に設置されている A E D の点検と管理、軽微な医療器材の修繕等を行なっている。
- 医療器材等の関係職員への教育研修等を立案している。
- 検査室で補佐的な業務を行なっている。

【今後の展望】

- 医療材料、衛生材料の情報提供することで、診療現場での混乱を防ぎ、コスト削減に努める。また、介護用品購入時には、スタッフと共に患者に適した物品を提供して、日常生活がスムーズに過ごせるよう手助けをしていく。

文責 中村三枝子

【実績】

- 2 / 6 デイケア棟で AED の勉強会
- 4 / 9 新人研修での心肺蘇生実演
- 6 / 11 2 階病棟ナースセンターでオムツに関する勉強会
- 6 / 30 静脈瘤置針の勉強会
- 7 / 24 1 階北病棟ナースセンターでオムツに関する勉強会
- 7 / 27 Evening studies 手洗い方法講演
- 8 / 28 ニプロ輸血ポンプ関連ルート変更の為の勉強会
- 9 / 24 医療廃棄ボトル変更の為の勉強会
- 10 / 14 第 1 回医療ガス委員会
- 11 / 26 作業療法室・1 階北病棟患者手洗い方法勉強会